

後援会だより

ごあいさつ

福島大学共生システム理工学類長 石原 正

日頃、後援会の皆様からは学生の諸活動に対して多大なご支援を頂き感謝申し上げます。

福島大学共生システム理工学類は、平成17年度に第1期生を迎えてから、10年が経とうとしています。平成20年4月には研究科博士前期課程が、平成22年には博士後期課程が設置され、学びの場が完備されました。今ではさまざまな分析機器が絶えず稼働し、PCや実験台の前に座り作業する学生の姿が日常的にみられます。

昨年度行われた大学のミッションに関する意見交換の際、文科省側から、「国立大学の工学系は学部学生の6割以上が大学院へ進学するものとしてミッションを考えてほしい」との発言がありました。文部科学省は理工系人材育成を重視する方針ですが、残念ながら、本大学院では定員充足が達成されていない状況です。そこで、後援会の皆様に理工系における大学院教育の重要性をご理解して頂く必要があると考え、お話をさせていただきます。

まず学類生のカリキュラムで3年生後期から研究室に配属され、専門性を身に付けていくのですが、大学院ではさらにその質を高めます。本格的な化学分析、機械工作や設計、数理解析、フィールドワークや文献による調査その他の研究活動に従事します。それぞれ分野の理論、技術、手法などを毎日積み重ねることによって、技術者倫理などと共に理工マインドを会得します。また、学会発表や共同研究など学外での経験により社会性が身につきます。

本年度の就職活動では技術系企業からの大学推薦の依頼が増加しています。学類卒業生あるいは修士修了生のいずれか1名を推薦してほしいと言

うのが普通です。この場合、明らかに修士修了生が面接への対応(専門性に関する説明能力)で有利です。実際、修士課程修了生の有名技術系企業・官公庁等への就職は年々増えています。

私共の学類では、多くの学類生が公務員、教員を志望していますが、例えば、理工系の国家公務員試験では(最近、制度が大きく変わったようですが)修士課程修了が普通であり、教員免許でも、修士課程修了を必要とする専修免許の取得は採用上有利だけでなく、校長等の学校管理職となるための登用要件とされることが多いことをご認識頂きたいと思います。

大学院への進学は保護者の皆さんのさらなる負担になることは言うまでもありませんが、その教育効果を知っていただき、ご子弟の進学を検討していただきたいと存じます。

最後になりましたが、近年台風や集中豪雨による災害が増え、また猛暑が続くなど、気力体力が消耗される気候が続きます。皆様方の息災をお祈り申し上げます。



一年生紹介

Aグループ

高橋 隆行

A組は、男子18名、女子4名のにぎやかなクラスです。5月の末には、懇親会として、福島水林自然林までかけてバーベキューパーティをしました。すがすがしい初夏の陽気の中、おなか一杯にアウトドアでの食事を楽しみました。

6月からは、いくつかのグループに分かれて自分たちの興味ある学術分野の調査と発表を行っています。先日、中間報告会をしましたが、みなさんなかなか良い発表をしていました。これからの成長が楽しみです。



Bグループ

石岡 賢

Bグループは22人、それぞれの出身は福島、青森、岩手、山形、宮城、栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、愛知、三重、ベトナムなど広いエリアにわたります。これらは、大学で、これまで高校では経験できなかった、いろいろなことを学ぶには大変良いメンバー構成と言えます。これから多様な価値観と出会い、多くの知識・経験を得て、将来への選択肢を増やし、それぞれの希望する針路へ進むことができるように、サポートしていきます。



Cグループ

長橋 良隆

Cグループは、福島県・宮城県出身者16名、北海道、秋田県、栃木県、茨城県、静岡県、兵庫県から各1名、合計22名(女性4名、男性18名)です。

入学して2ヶ月後の感想を尋ねると、「いろんなことが出来て充実している」、「今までに感じるものの出来なかった新しい発見や気づきが数多くある」、「良い方へも悪い方へも自分次第で変わっていくものだ」など、入学当初の緊張もほぐれ、大学での生活や勉学に慣れてきた様子がうかがえます。若者らしく、挑戦する気持ちを忘れないで欲しいと思っています。



一年生紹介

Dグループ

田中 明

Dクラスは、男性18名、女性4名でその半数以上が福島県と宮城県出身です。自己紹介では人見知りな一面も見せていましたが、将来のことや自分の興味について明確な意見を持っている学生も目立ち、大いなる可能性を垣間見ました。

前期の教養演習では主にプレゼンに力をいれましたが、複数回のプレゼンで皆なかなかの上達をみせていました。勉学に限らず充実した大学生活が送れるようにサポートしていきたいと思っております。



Eグループ

藤本 典嗣

本クラスは、22名の学生(男子学生18名、女子学生4名)で構成されています。みんな元気が大変よく、自主的で、活発です。教養演習での各種のガイダンス、セミナーに加え、相互の親睦を高めるために、色々なレクリエーションも、企画しました。

最初のレクリエーションは5月におこなった、ボーリングでした。世代をこえて、楽しめるボーリングは、新入生にとっても、楽しいもので、これを機に、より一層の親睦が深まりました。



Fグループ

川越 清樹

Fクラスは、福島県11名、栃木県3名、秋田県2名、茨城県2名、岩手県1名、山形県1名、宮城県1名、静岡県1名の出身者で構成された総勢22名のクラスです。積極的な学生さん、遠慮がちな学生さんと多様ですが、それぞれ個性をもちながら教養演習は進められています。でも、まだまだ教員を驚かせるほどのパフォーマンスは見られてないかな...と思いますので、これからのお楽しみといったところでしょうか？

「教養演習I」では、各種ガイダンスのほか、大学院生との学生生活についての懇談会や、留学生との英会話教室、海外渡航の話等の質疑をしながらの講義と、3分間プレゼンやメール、レポートの書き方等の学習基礎要請の講義をしました。



一年生紹介

Gグループ

永幡 幸司

グループの皆に、後援会報のクラス紹介にどんなことを書いたら、このクラスらしさが伝わると思うか、尋ねてみました。複数人が挙げたキーワードをつなぐと、次のような文章が完成しました。

ノリが良く、ユーモアがある人が集まった、賑やかだけど、やる時はやる、まじめなクラスです。クラス仲は良く、協力しあっています。北海道からベトナムまで幅広い地域の人が集まっているため、色々な地域の美味しいものが食べられます。Gグループは、確かに、こんなクラスです。



Hグループ

浅田 隆志

Hグループは、県内出身者が9名、隣県の宮城3名、栃木2名、あとは秋田、岩手、新潟、埼玉、富山、愛知、ベトナムの出身者で、女性3名、男性18名の計21名です。

初めは、皆緊張しており、ほとんど会話もありませんでしたが、メンタルヘルスの授業等では、グループ内で積極的に議論していました。大学生生活は、一人暮らしを始める学生が多く、大変なことも多いですが、充実した毎日を送れるよう、サポートしていきたいと思います。



Iグループ

グループアドバイザー
横尾 善之

Iクラスは男性17名、女性4名の合計21名で構成されています。出身地は、福島11名、宮城2名、岩手2名に加えて、山形、新潟、栃木、茨城、東京、ベトナムから各1名となっています。

教養演習Iという講義を通じて、Iクラスでは関心のある研究室を訪問し、将来の専攻配属、研究室配属、進路を考え始める機会を設けました。先日は、後援会のご支援をいただき、懇親のためのボーリング大会を実施し、クラス内の雰囲気も打ち解けてきました。



流域水循環システム調査実習2014～OBによる職業説明

2年生後期の集中講義である「流域水循環システム調査実習」において、人工的水循環の管理について学習するため、福島県三春町の三春ダム管理所にてダム見学を行った。この見学の依頼の際にあわせて、広く技術的な業種を知っていたい希望もあり、国土交通省のダムだけに関わらない最前線のインフラ整備、仕事の内容、および技術系業務のスキルアップ過程説明もお願いしたところ、平成21年度に福島大学共生システム理工学類環境システムマネジメントを卒業し、国土交通省東北地方整備局河川部に勤務している佐藤雄太さんをダム管理事務所に来所させ、これらを説明して頂く機会を設けてもらう取り計らいを受けた。この場を借りて、ご協力頂いた国土交通省三春ダム管理事務所、および東北地方整備局には深大なる感謝を申し上げます。

佐藤雄太さんについて簡単に紹介すると、福島県における短時間降雨極値と水災害発生の因果関係を定量化する研究を学類卒業論文で取り組んでいた。この研究は学内だけでなく学会でも高い評価を受け、土木学会東北支部の研究技術発表会において研究奨励賞を受賞している。また、学類における教育過程、および卒業研究の取り組みを存分に生かして、安全な国土の構築を担う職業に尽き、河川、砂防、そしてダム管理業務の最前線で活躍している人材である。

佐藤さんからは、主に東北地方整備局に就いてからの経歴と、こうした職種を選択するまでの大学での生活についてお話を頂いた。そもそも国土交通省の仕事内容を知るきっかけは「流域水循環システム調査実習」であり、自身の中で「大学で学習したこと」と「やりたい仕事」の内容が一致したことより国土交通省の職員を目指したという。類似した業務として建設コンサルタントの選択肢もあったが、自身の意識として、「知識を深化させ専門技術を磨く」よりも「広い知識で地域をマネジメントしていくこと」に強い関心があったことから国土交通省を選択したとのこと。試験を受ける前から、受験に向けた知識を高めるだけでなく、根気よく仕事を調べあげ就職することに取り組んできた経験の話も頂いた。大学時代には時間があるため中だるみになる可能性もあるが、「長い期間で取り組めることを進める」、「自分から行動していくことが重要」という学生へのアドバイスも頂いた。また、仕事をするということにおいて大切なこととして、「知識」だけでは不足で、「使命感、周りとのコミュニケーション、積極的な姿勢」が重要との説明を受けた。最後に、こうした自身の話で、国土交通省の仕事に興味を持ってもらうことと、自身の後輩がどんどん入省してもらえたらという話も頂き、佐藤さん自身の仕事の充実している様が伺えた。佐藤雄太さん、後輩たちへの貴重な経験談を聞かせて頂き大変有難うございました。

環境システムマネジメント専攻
准教授 川越清樹



檜原湖にてサンプル採取



流域水循環システム調査実習2014



三春ダム管理所にてOBの説明を聴く

平成25年度

卒業生・修了生の進路状況と今年度の就職活動状況について

共生システム理工学類就職支援委員会・委員長

大学全体の就職状況については、第66回定例記者会見(6月4日)において報告されています。それによると、平成25年度、福島大学全体の就職率は95.8%と、全学再編(2学群4学類)以降、最高の就職率となりました。福島県内企業・自治体への就職者数も過去最大に近い実績となり、東日本大震災からの復興に携わるために地元福島への就職を選択した学生が多かったのではないかと推測しています。以下では、共生システム理工学類卒業生および大学院共生システム理工学研究科(博士前期課程)修了生の就職状況と今年度の就職活動状況について報告いたします。

1. 卒業生・修了生の就職状況

平成25年度、共生システム理工学類卒業生の就職率は94.8%でした。東日本大震災以降、最高の就職率となりました。過去3年間の進路状況を表1に示します。

平成25年度の就職者の業種は、民間企業では情報通信業21名、製造業11名、卸・小売業10名など、さらに国家・地方公務員21名、教員8名(うち正規採用3名)の割合が多くなっています。都道府県別では、北海道・東北への就職者が約52%と最も多く(福島県が38名、宮城県13名など)、関東が約41%(東京都20名、栃木県13名など)となっています。また、その他の18名の学生は、残念ながら進路決定に至らなかった学生です。そのうちの半数が公務員等を希望していることが特徴です。大学院進学者等は39名と過去最低でした。共生システム理工学類としましてはこのことを危惧しております。学生自身が進学を指向する意欲が大切ですが、保護者の方の理解と協力も欠かせません。どうぞよろしくお願いいたします。

平成25年度、大学院(博士前期課程)修了生の就職率は97.1%と、過去最高の就職率となりました(表2)。民間企業への就職が多数を占め、なかでも製造業や情報通信業の割合が高くなっています。また、教員や公務員へも就職しています。

なお、福島大学では、進路未決定のまま卒業・修了した学生に対しても、引き続き就職に関する情報提供や支援を行っています。

表1 理工学類生の進路状況 (単位:人)

項目		H23 年度	H24 年度	H25 年度
卒業者		191	187	167
就職者(a)		123	106	110
業 種 別 就 職 者 内 訳	農・漁・鉱業			
	建設業	6	4	6
	製造業	21	19	11
	電気・ガス・水道業			4
	情報通信業	12	14	21
	運輸業、郵便業	3	5	4
	卸・小売業	10	10	10
	金融業	7	6	6
	保険業	1	1	2
	不動産業、物品賃貸業			1
	宿泊業・飲食サービス業	2	1	1
	教育・学習支援業	1	4	2
	医療、福祉	2	4	1
	複合サービス業	2	1	3
	サービス業	11	4	6
	国家公務員	4	2	1
	地方公務員	31	21	20
	教員	7	8	8
	自営業・その他	3	2	3
進学者等		45	55	39
その他		18	26	18
そ の 他 内 訳	未定者(b)	8	9	6
	公務員等希望者	10	12	9
	有識者			
	その他		5	3
就職率		93.9%	92.2%	94.8%

*就職率=就職者÷就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

2. 平成26年度の就職活動状況

新年度の前半は採用選考の最盛期ですので、企業の大学訪問も少ないのですが、今年度は例年より多くの企業が福島大学を訪れています。また、企業推薦の申し出も相当数あり、それにより採用が決定している学生も例年より多いようです。これらのことは、企業の採用意欲が高まっている状況を反映しているものと思われます。

表2 大学院修了生の進路状況(単位:人)

項目	H23 年度	H24 年度	H25 年度
修了者	49	45	41
就職者(a)	30	31	36
就職者内訳			
民間企業等	24	24	27
国家・地方公務員	1	4	5
教員	2	2	4
自営業等	3	1	0
進学者等	4	4	3
その他	15	10	2
その他内訳			
未定(b)	11	5	1
公務員等希望者	1	0	0
有識者	0	1	1
その他	3	4	0
就職率	73%	86%	97%

*就職率=就職者÷就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

公務員・教員への就職や大学院進学の設定はまだこれからですが、民間企業への就職を希望していて、まだ進路決定に至らない学生もいます。このような学生に対しては、指導教員はもとより、福島大学の就職支援室あるいは就職支援委員会において、進路決定に向けた支援体制をとっております。

福島大学では、次のような就職に関わる取り組みと支援を実施しています。

- 大学主催の合同企業説明会(春と秋に開催)
- インターネットを利用した求人検索
- キャリア相談員による就職・進路個別相談
- 各種の就職ガイダンスやセミナーの開催
- 就職活動に関わる交通費の一部補助
- 首都圏で開催される就職イベント等への参加のための無料送迎バスの運行
- 企業訪問のバスツアー

その他、「保護者のための就職セミナー」を毎年大学祭の時期にあわせて開催していますので、就職に関わる現状や環境について理解を深めていただければと思います。

さて、平成27年度卒業、現3年生から就職活動に関わる重要日程が変更になります。すなわち、会社説明会等の広報活動の開始時期が卒業・修了前年度の3月から(これまでよりも3ヶ月後ろ倒し)、採用選考活動の開始時期が卒業・修了年度8月から(これまでよりも4ヶ月後ろ倒し)となります。福島大学ではすでに変更後の日程に合わせて、大学主催の合同企業説明会や各種就職ガイダンスの日程を組んでおります。このことは、就職ガイダンスを通じて学生への周知を行っており、学生自身はすでに日程変更について認識しています。それでも、学生が混乱しないように、また不利益を被らないようにするため、大学としても注視していきたいと考えています。

「保護者のための就職セミナー」の開催について

(主催) 福島大学就職支援委員会

(後援) 福島大学人間発達文化学類後援会、福島大学行政政策学類後援会
福島大学経済経営学類後援会、福島大学共生システム理工学類後援会

テーマ:「大学生の就職事情と就活における親の役割」

どのような就職状況であろうが、非常に早い時期に希望の会社の内定を取る学生もいれば、就活に苦戦をし、就活が長期化する学生もいます。その違いはどこにあるのでしょうか。大学のキャリア教育や就職支援の取り組みとともに、このことについてお話ししたいと思います。また、就活時における親の心構えについてもお話しします。

参加を希望される方は、参加申込書にご記入の上、FAX・郵送・メール等で、10月17日(金)まで就職支援室あてお送りくださいますようお願いいたします。お送り頂いた参加申込書により、そのままセミナーにご参加いただけます。そのため、こちらからはお申込みの結果についてご連絡はいたしませんので悪しからずご了承ください。

なお、当日は金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されております。併せて是非ご覧いただきますようご案内いたします。

記

1. 開催日時 平成26年11月1日(土) 13時~14時30分【参加無料】
2. 開催場所 福島大学共通講義棟 L-4教室 (福島市金谷川1番地)
3. 参加対象 福島大学の在学生の保護者の皆様
4. 開催内容 ①挨拶 中井 勝己 学長
②講演 伊藤 宏 就職支援委員会委員長(経済経営学類教授)
③質疑応答

【参 考】

≪伊藤宏氏のプロフィール≫昭和31年 名古屋市生まれ
平成22年度から福島大学就職支援委員会委員長、
CDA(キャリアアデロップメントアドバイザー)、
福島県労働委員会会長代理
担当科目: キャリア形成論・原価計算・管理会計

【申込先】福島大学学生課就職支援室

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355
E-MAIL: shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp



学生生活支援便り

共生システム理工学類 学生生活委員会

紙面を拝借いたしまして、
後援会の皆さまに理工学類の学生の動向、
学生生活上の注意などをお知らせしております。

【新入生に対する様々なガイダンス】

1年次生の必須科目の1つである教養演習Ⅱは1クラス20数名で行われる授業で、クラスアドバイザー(教員)が主に受け持つ、いわばホームルームとしての性格が強い授業です。もちろんここで初めて顔をあわせるのですから、自己紹介からスタートし、つづいてアドバイザーの講義を受けることになります。学生生活委員会ではこの時間をお借りして、学生生活を送る上で参考となる様々なガイダンスを行っています。例えば、福島警察署生活安全課からお招きした講師の方からは、事件に巻き込まれないためにはどのようにしたらよいか、また、万が一巻き込まれた場合にはどこに相談するのかなど、具体的事例をあげながら、わかりやすく解説していただきました。福島市消費生活センターからは消費生

活を送る上で生じる様々なトラブルの紹介や対処方法、自分はだまされやすいかどうかのチェックなど、幅広く解説していただきました。メンタルヘルスについてのガイダンスもあり、臨床心理を専門とする学内外の先生から、新入生にありがちな心の問題を中心に2回の講義をしていただきました。その昔、五月病という言葉がよく聞かれていましたが、今ではそのような単純な言葉に様々な心の問題を押し込めることはできないようです。このようなガイダンスを行うことで、新入生がはやく大学生活になれるように願ってやみません。近年はカルト宗教や学生運動に関係する団体の動きもちらほら見受けられます。これらにも十分注意して、有意義な大学生活を送っていただきたいものです。

【学業成績優秀者に対する表彰】

学生生活委員会では学業成績優秀者に対して表彰する制度があります、しかし、学生としての本分に反する行為があった場合には罰を与えることもあります。後者については皆無でありたいものです。昨年度の学業成績優秀者の表彰式が学生交流会で行われました。これは、1年間の取得単位数を考慮して、GPAと呼ばれる成績評価数値の上位

約15名に対して、学類長が学業成績優秀者として表彰し、賞状と図書カードを贈呈するもので、当日は2年次生から4年次生の代表者が壇上にて学類長より表彰されました。交流会や学生表彰には、後援会からの多大なるご支援を頂いております。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

教員、大学への相談

学生生活の中で学生諸君は、進学、就職、授業やアルバイト、人間関係など、さまざまな問題に直面するものです。さらに、震災や原発問題も学生たちの生活や心に影響を与えているだろうと思います。友人たちで悩みを打ち明けあい、相談して解決していくこともとても重要なことですが、もし本当に困ったことがあったならば、教員にも一言、相談してください。グループアドバイザーや指導教員がもっとも身近な教員です。遠慮することはありません。

また、学生生活に関わるさまざまな問題や心配事は、学生課が窓口となって、相談を受け付けています。授業料免除や奨学金の問題、その他生活に関する相談な

ど、困ったこと、各種トラブルが生じたときには是非ご相談ください。対人関係やメンタルの問題については、学生相談室に専門のスタッフが常駐しています。相談者のプライバシーは必ず守られますので、問題が悪化する前に、早めに対処することが望ましいです。ご家族の皆さまとの連携もたいへん重要なポイントですので、ご心配な場合はお気軽にご相談ください。



連絡先 学 生 課 TEL024-548-7681
学生相談室 TEL024-548-5156

平成25年度成績優秀者表彰

1年

石川 竜也
猪俣 貴紀
貝沼 修弥
斎藤 捺樹
佐々木ひとみ
佐藤 弘基
佐藤 棕一
澤崎 萌香
霜山 翼
関根 大朗
高澤 啓太
田辺 将大
丹野花奈子
永作 美有
柳田 知美

2年

阿部 良祐
伊藤 和豊
伊藤 千尋
大島 涼
加藤 光
関根 康平
高木 勇人
高橋 香澄
ダムクワンマン
照沼 大誠
中川 太一
新山 昌悟
宗像 愛
柳沼 貴寛
山野 一騎
ロウシホウ

3年

青野 真依
伊澤まどか
井上 浩太
遠藤 優年
梶 いぶき
木村 涼太
小関 真悟
佐藤ひかる
鹿野 雄大
中村 誠彌
成田 裕幸
宮崎 美妃
渡邊 愛
渡邊 健作
吉川 慧

4年

オウイホウ
加藤 哲也
海和 洵
吉家 芳明
橋本 光広
金子 翔平
佐藤 優輝
三浦 望
小磯 将広
新巻 有香
神野 成美
藤澤 昭仁
八巻 志帆
堀越 健太
野田真優子
和知 眞子

Congratulations!



6月5日 産業システム工学専攻交流会



6月19日 学生交流会



6月19日 成績優秀者表彰



8月2日 サイエンス屋台村

平成25年度
共生システム理工学類後援会
会計決算報告

収入内訳				(単位円)
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	7,113,500	7,113,500	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4千円×6年)等を含む
会費	3,600,000	3,590,000	△ 10,000	入学者(編入学生を含む)
雑収入	0	1,111	1,111	利息
収入合計	10,713,500	10,704,611	△ 8,889	

支出内訳				(単位円)
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
事務局運営費				
総会費	5,000	0	△ 5,000	資料印刷費等
役員会費	130,000	119,025	△ 10,975	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与
事務費	45,000	119,126	74,126	通信費、消耗品費、事務局備品等(事務用PC)
小計	780,000	838,151	58,151	
事業費				
学生活動助成費	600,000	614,600	14,600	学生の課外活動支援費、表彰制度
就職指導対策費	300,000	203,400	△ 96,600	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	298,640	△ 1,360	会報年2回発行 印刷費・発送費
福利厚生費	720,000	419,000	△ 301,000	アドバイザーグループ助成 研究室配属学生補助:1,000円*180*4
学類運営助成費	200,000	78,079	△ 121,921	理工系学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	700,000	511,750	△ 188,250	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円*100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成:30万
小計	2,820,000	2,125,469	△ 694,531	
予備費	0	269,000	269,000	学務異動に伴う会費返還費
支出合計	3,600,000	3,232,620	△ 367,380	
収入合計-支出合計=				7,471,991 円は平成26年度へ繰越

平成26年度
共生システム理工学類後援会
会計予算

収入内訳				(単位円)
科目	本年度予算額	H25年度予算額	比較増減額	備考
繰越金	7,471,991	7,113,500	358,491	
会費	3,600,000	3,600,000	0	5,000円*180名*4学年
雑収入	0	0	0	預金利息等
収入合計	11,071,991	10,713,500	358,491	

支出内訳				(単位円)
科目	本年度予算額	H25年度予算額	比較増減額	備考
事務局運営費				
総会費	5,000	5,000	0	資料印刷費等
役員会費	130,000	130,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与
事務費	45,000	45,000	0	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	780,000	0	
事業費				
学生活動助成費	600,000	600,000	0	学生の課外活動支援費、表彰制度:5,000円*45人
就職指導対策費	300,000	300,000	0	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	300,000	0	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	720,000	720,000	0	0教養演習グループ・研究室配属学生助成:1,000円*180名*4年
学類運営助成費	200,000	200,000	0	学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	700,000	700,000	0	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円*150人、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成
小計	2,820,000	2,820,000	0	
支出合計	3,600,000	3,600,000	0	
予備費 (繰越金)	7,471,991			学務異動にともなう会費返還費 学生活動助成:36万円*(1年+2年+3年) 福利厚生費(18万円*6年) 通信費(3万4千円*6年)
合計	11,071,991			

平成26年度 福島大学共生システム理工学類 後援会役員

会長 高橋 清典	／	副会長 阪本 松男	／	副会長 野田 博正	／	監査 小泉 昌子
理事 計良 浩	／	理事 丹野 茂生	／	理事 根本 博幸	／	理事 押切竜一郎
理事 鈴木 忠継	／	理事 野地 英男	／	理事 遊佐 正広		

福大祭へ
お越しください!

第50回 福大祭 本祭(一般公開)

●場所: 福島大学 ●日時: 平成26年11月1日(土)~2日(日)
ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・学外展示・お笑いステージなどを企画しています。

ご意見・ご要望は下記 共生システム理工学類後援会 まで

事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。 <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>